

「今福線」のマップに夢を乗せて

大畑 富紀

1. はじめに

今福線研究分科会は今年度で3年目を迎え、成果をあげる重要な年となる。今回は、これまでに活動した1年目の基礎調査、2年目の「地元の皆さんとの会」を踏まえ、マップ作成という大きな目標が決定した。そこで、まずはマップの作成に必要な現地情報の収集、写真の撮影および確認を目的にした現地踏査を行い、マップの素案を作成した。また、今福線をよく知る浅利寺住職の泉さんとも連絡がとれ、お伺いする機会を得られたり、再び石本さん宅を訪れマップ作成の報告を行うことができた。

ここでは、今年度の活動報告として、研究部会活動内容、地域の方との交流、作成したマップの状況を報告する。

2. 今年度の活動内容

- ・ 4月19日～5月11日 現地確認……ちょっとしたハプニング？
- ・ 6月23日(土)12:00～ 第1回会合 打ち合わせ……今年度の活動内容決定
- ・ 7月14日(土)13:00～ 第2回会合(訪問)……浅利寺住職さん訪問
- ・ 11月10日(土)～11日(日) 第3回会合(現地)……マップ作成のための現地調査
- ・ 11月11日～30日 各班で詳細マップの素案作成
- ・ 12月22日(土)14:00～ 第4回会合(訪問)……石本さん宅訪問

3. おろち泣き橋看板の不思議

私は実家に帰省するときには、おろち泣き橋入口の県道を利用している。4月に通ったときには、写真1のように立派な案内看板が立てられていた。さらに、橋の入口の里道にはアルミ製の入口ドアと不思議な音が体験できるポイントにも看板が立っていた。昨年開催した「地元の皆さんとの会」がきっかけとなったようだ。

ところが5月のGWに通ったときには写真3のように無くなっているのではないか。看板を面白くない人でもいたのか。さっそく石本さんに事情を聞いてみた。その結果、春の強風で折れたため、太い支柱に更新されたそうだ。

その後も看板は現存しており、県道を通過するとよくわかる位置に立てられているため、ぜひ、おろち泣き橋にいつてみてほしい。



写真1：4月18日撮影



写真2：おろち泣き橋入口と看板



写真3：5月4日撮影



写真4：5月11日撮影

4. 浅利寺住職さん訪問

昨年、石見ケーブルビジョンにて放送された『新番組！！怪傑！？ 石見ふしぎ探検社～謎の建造物を探れ！幻の鉄道“広浜線”』という番組の中で、今福線に詳しい浅利寺住職の泉さんの紹介があった。今年連絡を取ることができ、7月14日に訪問することができた。

今福線のほか、山陰線、当時国鉄で勤務されておられた経験談、さらに資料をいろいろ準備してくださっており、あつという間の4時間であった。



写真5 住職さん訪問状況



写真6：多くの廃線資料

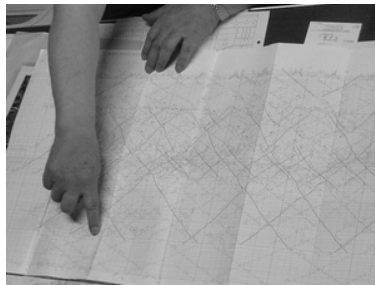


写真7：鉄道ダイヤ

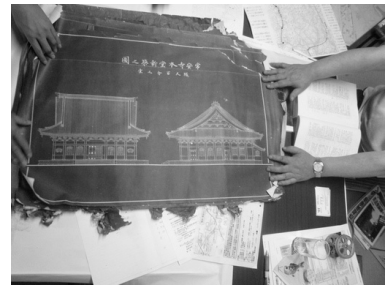


写真8：青焼き図面

また、大の鉄道ファン(まさにてっちゃん)でおられ、SLの模型、遺跡関係図書やDVD、JR山陰本線の縦断図やダイヤを見せていただいた。さらには、昔ながらの建物の青焼きも見る事ができた。図面で使用していた白紙に青字ではなく、背景が青色に白字の図面であった。

5. 今福線マップ作成

マップは全体版と3つに分割した拡大版の4枚構成である。図1は私たち2班担当の中間部のマップ案である。この区間は土木学会認定選奨土木遺産銘板が設置してある箇所であり、県道周辺にトンネルや橋梁が集まっていることもあり、視察場所として必ず選ばれている。

次項より、これまでの調査を踏まえての主な名所を紹介する。

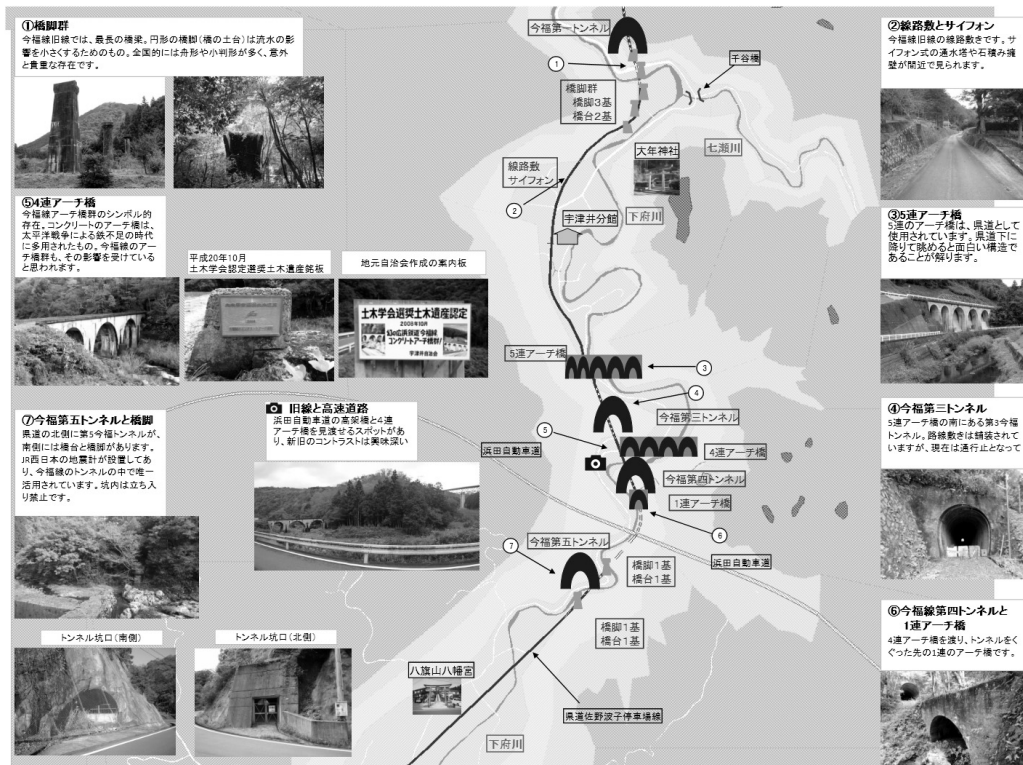


図1：今福線マップ(中面)

〔橋脚群〕

今福線旧線では、最も長い橋梁区間といわれている。県道からの橋脚群は有名であるが、山側に登ると橋台が確認でき、橋脚の並びがカーブを描いているのがわかる。このあたりの列車からの眺望はよかつたのではともいわれている。



写真 9 : 橋脚群

〔線路敷とサイフォン〕

今福線旧線の線路敷きであり、サイフォン式の通水塔や石積み擁壁が間近で見られる。民家の奥側もずっと線路敷きが残っており、前述の橋脚群へと続いている。



写真 10 : 線路敷

〔4連アーチ橋〕

今福線は二度にわたって建設が中止となり、その時の構造物が自然と調和しつつ残存していることから、平成20年10月に土木学会認定選奨土木遺産に認定された。橋梁の地覆に土木遺産認定の銘板が設置されており、視察ツアーや現地調査においても必ず訪れる有名な箇所である。

非常に残念なのは復旧されたコンクリート護岸である。左下は2010年の状況であり、アーチ橋は周辺護岸と調和しており、親しみを感じさせる。一方、右下は2012年の状況であるが、護岸復旧のコンクリートが新しく、白い護岸が完全に浮いており景観を損なっている。構造物の補修は必要ではあるが、コンクリートのべた塗りはいかかなものか。非常に残念な状況であり、今回の調査で一番ショックをうけた箇所である。

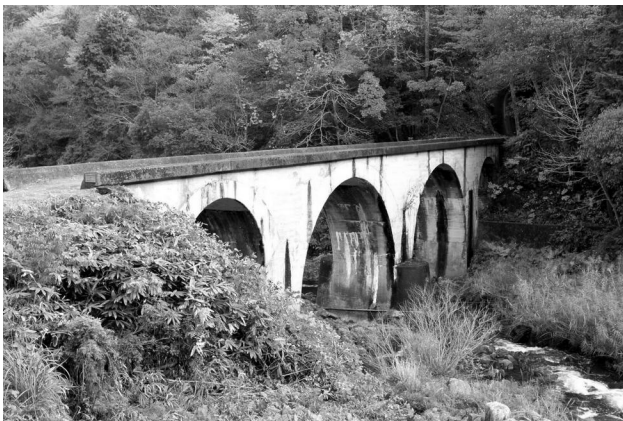


写真 11 : 2010年11月撮影

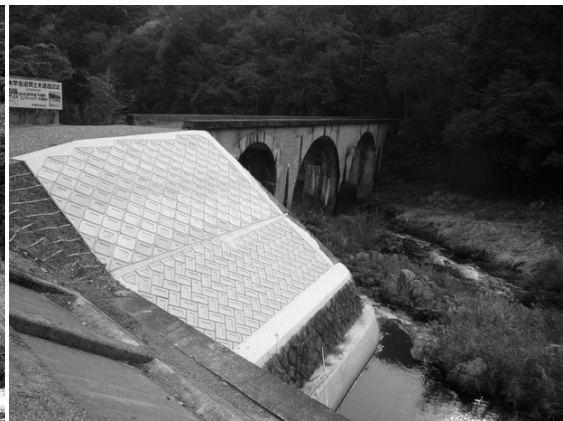


写真 12 : 2012年11月撮影

〔旧線と高速道〕

先ほどのアーチ橋よりやや上流からは、浜田自動車道の高架橋を見ることができる。橋脚設置箇所は旧線の線路敷であり、鉄道から自動車へと広島・浜田間の交通手段の変化と悲運の歴史を伝えているように感じさせる。県道には4連アーチ橋と自動車道の高架橋の双方を見渡せるスポットがあり、新旧のコントラストの写真の撮影が可能である。



写真 13：高角 28mm で撮影



写真 14：パノラマイメージ（写真は合成）

6. 再び石本さん宅へ

12月には一通りマップが完成したため、再び石本さんを訪問し、意見をいただくとともに地元代表の方にも確認をお願いした。浜田市読書サークルすみれ会では10月に今福線視察のイベントを開催され、石本さんが案内されたそうだ。そのときの調査内容や思いを「秋の史跡探訪～未成線広浜鉄道（今福線部分）を訪ねて」という冊子にまとめられた。



写真 15：石本さん訪問と冊子

また、石本さんからは案内の経験を踏まえ意見をいただいた。

- ・しっかり見てもらうために、駐車場を明記する。
- ・地元で知名度のあるランドマークを追加する。
- ・旧線鉄道駅予定地を表示する。など

このほかにもわかりやすい地図となるように表記に関するアドバイスをいただいた。

7. 今後の活動と課題

今回の追加調査と地元の方々の交流を踏まえ、新たな課題は以下の3点と考える。

【マップの完成】

石本さんと地元の方の意見や要望を反映するとともに、それぞれの班の地図の表記方法を統一しマップを完成させる。

【再利用方法の検討】

廃線跡をどのように保存・利用するかは難しい課題ではある。先般、石本さんからおもしろい提案を聞かせていただいた。馬車を走らせ、旧線と新線が周遊できるようにするものである。昨年分科会で宿泊した乗馬体験ができた「かなぎウエスタンライディングパーク」は今年度4月移行運営がストップしてしまった。馬は地元の福祉施設で世話をされているそうだ。この馬と廃線がうまく利用できれば、地域資源の有効利用と地域活性化に役立つかもしれない。

【隣接団体のコラボ】

佐野町の寿会と隣接する金城町の雲城まちづくり委員会と交流が進めば、視察ツアーや保護活動などが活発になるのではないかと考える。コラボができるようきっかけを探っていきたい。

来年度は上記の課題に取り組むほか、危険箇所のまとめと対策整理、構造物補修の留意点、下長屋トンネルの視察など、成果が得られるように、研究活動に参加したいと考えている。